

人にも環境にも優しく畑作物を護る「総合土壌くん蒸剤」

臭化メチル代替剤

キルピ®

一般名/カーバムナトリウム塩

有効成分/ナトリウム=メチルジチオカルバマート 30%

性状/黄色水溶性液体

刺激臭が少なく安全に土壌消毒ができます!

使用上の注意事項

⚠ 注意 [効果・薬害等の注意]

1. 土壌くん蒸処理を行う場合は、次のことを守る。

- (1) 本剤は、耕起整地した後に処理する。特に粘土質土壌や大きな土塊が残っている場合には、効果が劣るので丁寧に実施する。
- (2) 本剤を施設で使用する場合は、施設内に作物があると、薬害を生じるおそれがあるので、使用しない。
- (3) 本剤を使用する場合は、重粘土質の土壌や降雨などで土壌水分が多い場合や秋冬期など平均地温が10℃以下になる場合等の、残留が懸念される場合は被覆期間を延長するか、ガス抜き耕起を十分に作る。
- (4) 本剤を土壌注入、散布混和、灌水または土壌表面散布する場合は、土壌が乾燥しているとガスが抜けやすく、効果が出ない場合があるので、処理前に散水し、土を握って放すと割れ目ができる程度にすることが望ましい。
- (5) 土壌病害防除および雑草防除に使用する場合には、本剤の所定薬量を注入または散布混和、あるいは土壌表面に散布した後、被覆資材などで7~14日間被覆した後、さらに3~10日間経過してからは種または定植する。
- (6) 気温の上昇する時期に、本剤を注入で使用する場合は、注入後直ちに被覆資材などで被覆する。
- (7) 本剤を土壌注入する場合は、注入間隔を出来るだけ狭くするのが望ましい。
- (8) センチュウ類防除に使用する場合は、本剤の所定薬量を注入した後、被覆または覆土・鎮圧し10~24日間経過してからは種または定植する。
- (9) 本剤を土壌に散布混和する場合は、処理後直ちに農業用被覆資材などで被覆する作業体系で実施する。その際、所定薬量を水で3倍程度希釈して散布すると圃場に均一に散布できる。また寒冷地で根雪前に使用する場合は、処理後は覆土・鎮圧でもよい。
- (10) 本剤を灌水処理する場合は、次のことを守る。
 - ① 処理前の圃場は、過剰散水による過湿は避ける。
 - ② 使用する灌水チューブは水平型または点滴チューブ等を使用し、設置する灌水チューブ間隔は30~50cm程度が望ましい。灌水前に灌水チューブなどの灌水設備は農業用被覆資材などであらかじめ被覆する。
 - ③ 灌水チューブへの薬剤送入には液肥混入器を用いるか、貯水用タンクに水希釈液を入れ灌水ポンプにより送水する。
 - ④ 所定薬量を水希釈液として灌水処理した後、直ちに1~2mmの降雨程度の後灌水をする。
 - ⑤ 水希釈割合は次を一応の目安とし、圃場土壌水分状態を考慮して適宜増減する。
 - ほうれんそう、きゅうり、すいか、トマト・ミニトマト、いちご、さやえんどう、実えんどう、たまねぎ、ねぎ・あさつき、わけぎ、メロン、花き類・観葉植物の場合は100倍程度を目安とする。
 - しょうが、みょうが(花穂・茎葉)の場合は20~100倍程度の範囲から選択する。
 - にらの場合は20~100倍程度の範囲から選択する。
 - ⑥ 液肥との混用は避ける。
 - ⑦ クロルピクリンとの混用は避ける。
- (11) あらかじめ被覆した内で土壌表面散布する場合は、被覆期間は7~21日間とし、被覆除去後に3日間以上経過してからは種または定植する。
- (12) 花き類・観葉植物に使用する場合は、本剤はフザリウム菌及びリゾクトニア菌による病害に対し効果があり、同じ病名であっても病原菌が異なるものもあるので注意すること。
- (13) たまねぎ苗床土に土壌表面散布する場合は、所定薬量を水で5~20倍程度に希釈し、15~20cmの高さに積み上げた土壌表面に均一に散布し、農業用被覆資材などで被覆する。

① 2. 本剤使用後の器具の金属部分は腐食される場合があるので、十分に水洗する。

② 3. クロルピクリン、D-D及び両者の混合剤とは化学反応を起こし、発熱または沈殿を生じ、器具の孔詰まりを生じる場合があるので、これらの剤とは混合して使用しない。またクロルピクリン、D-D及び両者の混合剤を使用した器具は灯油などで十分洗い、乾燥して本剤を使用する。また本剤を使用した後は、器具は必ず水洗し乾燥した後に使用する。本剤が器具中に残っていると他剤を加えることのないように注意する。

⚠ 注意 [安全使用上の注意]

[魚毒性] 本剤は水産動物に影響を及ぼすが、通常の使用方法では問題ない。
[保管] 直射日光を避け、食品と区別し、なるべく低温な場所に密閉して保管する。

- (1) 誤飲などないよう注意する。
誤って飲み込んだ場合には吐かせないで直ちに医師の手当てを受けさせる。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当てを受ける。
- ① (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないように注意する。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当てを受ける。
- ① (3) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意する。
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。
- (4) 土壌くん蒸処理の際は、保護メガネ、農業用マスク、不透透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。
- (5) 灌水装置による処理を行う場合は、次のことを守る。
 - ① 薬剤注入器(液肥混入器)はハウスの外部に設置する。
 - ② 薬剤の希釈作業及び灌水装置取り扱いの際は保護メガネ、農業用マスク、不透透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。
 - ③ 薬剤処理中はハウス内に入らない。また薬剤処理終了後は、ハウス側面の開放を行い、十分に換気した後に入室する。
- ① (6) 苗床土に土壌表面散布の際は、吸収缶(活性炭入り)付き全面体保護マスク、不透透性手袋、ゴム長靴、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。処理後のシート除去の際にも吸収缶(活性炭入り)付き全面体保護マスクを着用する。
- (7) 作業に際しては、ガスに暴露しないよう風向きに十分考慮する。
- (8) 作業後は直ちに手足、顔など石けんでよく洗い、洗顔・うがいをするとともに衣服を交換する。
- (9) 作業時に着用していた衣服などは他のものとは分けて洗濯する。
- (10) かぶれやすい体質の人は、取り扱いに十分注意する。



メガネ使用



マスク使用



手袋着用

適用病害虫・適用雑草及び使用目的と使用方法

作物名	適用病害虫名・適用雑草名・使用目的	使用量 (原液としてL/10a)	使用方法		使用時期	本剤の 使用回数	カーバム ナトリウム塩を 含む農薬の 総使用回数
			方法番号	方法			
たまねぎ	苗立枯病(リゾクトニア菌)	80ml/m ²		所定量の薬液を積み上げた土壌表面に散布し直ちに被覆する	は種または定植の10~24日前まで	1回	1回
	乾腐病	60	A B				
ほうれんそう	黒腐菌核病、一年生雑草	60	A				
	株腐病、立枯病、一年生雑草	60	A				
ねぎ	萎凋病、一年生雑草	40	B C				
	白絹病、一年生雑草	40	C				
わけぎ	根腐萎凋病、一年生雑草	60	A				
	根腐萎凋病、一年生雑草	60	B				
あさつき	根腐萎凋病、一年生雑草	60	A				
	根腐萎凋病、一年生雑草	60	B				
はくさい	根こぶ病、根くびれ病、黄化病、一年生雑草	40~60	A C				
	ネグサレセンチュウ、一年生雑草	40~60	C				
レタス 非結球レタス	ネグサレセンチュウ、一年生雑草	40~60	C				
	ビッグベイン病、すそ枯病、一年生雑草	60	A				
にら	根腐病	60	C				
	乾腐病、一年生雑草	60	A B				
	葉腐病、一年生雑草	60	A				
	ネグサレセンチュウ、一年生雑草	60	C				
きゅうり	古株枯死	60	B C				
	苗立枯病	60	A				
すいか	つる割病、一年生雑草	40~60	A B C				
	ネコブセンチュウ	40~60	C				
かぼちゃ	ネコブセンチュウ、一年生雑草	40	C				
	つる割病、一年生雑草	60	A B				
メロン	立枯病、一年生雑草	60	A				
	黒点根腐病	80	B				
ピーマン とうがらし類	ネコブセンチュウ、一年生雑草	40	C				
	ネコブセンチュウ、一年生雑草	40	C				
かんしょ	ネコブセンチュウ、一年生雑草	40~60	C				
	つる割病	60	A				
にんじん	しみ腐病、ネコブセンチュウ、一年生雑草	40~60	A C				
	ネコブセンチュウ、一年生雑草	40~60	A B C				
トマト	半身萎凋病、ネコブセンチュウ	40~60	A C				
	萎凋病、一年生雑草	40~60	A B C				
ミニトマト	半身萎凋病、ネコブセンチュウ	40~60	A C				
	半身萎凋病、ネコブセンチュウ、一年生雑草	40	C				
なす	根腐病、ネコブセンチュウ、一年生雑草	40	C				
	ネグサレセンチュウ、一年生雑草	40	C				
ごぼう	ネグサレセンチュウ、一年生雑草	40	C				
	ネグサレセンチュウ、一年生雑草	40	C				
さといも	乾腐病	60	A				
	根腐病、一年生雑草	60	A				
やまのいも	根腐病、一年生雑草	60	A				
	そうか病、一年生雑草	60	C				
ばれいしょ	ネグサレセンチュウ	40~60	C				
	パーティシリウム黒点病、一年生雑草	40~60	A C				
だいこん	ネグサレセンチュウ	40~60	C				
	パーティシリウム黒点病、一年生雑草	40~60	A C				
いちご	萎凋病、一年生雑草	60	A B C				
	ネグサレセンチュウ	60	C				
みょうが (花穂)(莖葉)	根腐萎凋病、一年生雑草	60	A B				
	根腐萎凋病、一年生雑草	60	A B				
しょうが	ネコブセンチュウ、一年生雑草	60	C				
	根腐萎凋病、一年生雑草	60	A				
にんにく	乾腐病、一年生雑草	60	A				
	萎凋病、一年生雑草	40	C				
さやえんどう 実えんどう	萎凋病	60	B				
	苗立枯病(リゾクトニア菌)、一年生雑草	60	A				
キャベツ	パーティシリウム萎凋病	60	A				
	根こぶ病、一年生雑草	40~60	A C				
ブロッコリー	ネコブセンチュウ	40~60	C				
	一年生雑草	40~60	A				
花き類 観葉植物	フザリウム菌による病害(萎凋病、萎黄病、球根腐敗病、腐敗病、葉枯病、立枯病、乾腐病)	60	A B				
	リゾクトニア菌による病害(苗立枯病、萎凋病、葉腐病、腰折病、株腐病、立枯病)	60	A				
	ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウ、一年生雑草	40~60	C				
しゃくやく(薬用)	根黒斑病	60	C				
たばこ	ネコブセンチュウ	40	C				
	立枯病	60	A				

A 散布混和
所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する

B 希釈散布/灌水
予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する

C 注入
所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆または覆土・鎮圧する

2009.08.19 現在



製造 バックマンラボラトリーズ株式会社

販売 サンケイ化学株式会社

本社 〒891-0122 鹿児島県鹿児島市南栄2丁目9番地 ☎099(268)7588(代)
九州北部営業所 〒841-0025 佐賀県鳥栖市曾根崎町1154-3 ☎0942(81)3808(代)
宮崎事務所 〒880-0056 宮崎県宮崎市神宮東3-6-19(山本ビル) ☎0985(25)7051
熊本連絡所 〒868-0014 熊本県人吉市下薩摩瀬町1604-11 ☎0966(24)2232

2009.10.5,000 (X5)